

第一屋製パン株式会社 様



「Google Apps for Work™」、スマートフォンの導入でコミュニケーション基盤を刷新し、スピード感のある営業スタイルを実現。

「第一パン」で知られる第一屋製パン株式会社（以下、第一屋製パン）では、従来ホスティングサービスのメールを利用していましたが、管理者の運用負荷軽減とグループウェア機能の活用で業務スピード向上を目指し「Google Apps for Work™」を導入しました。同時にフィーチャーフォンからAndroidスマートフォンへ切替ることで、モバイルでのグループウェア活用環境を整え、顧客対応のスピードアップ、業務効率を実現させました。コミュニケーション基盤を刷新したことで、卸先であるスーパー、コンビニでの競争激化にともない、「スピード感」が求められる製パン業界の競争に耐えうるICTインフラ環境を構築できました。

課題と導入の効果

課題 スーパー、コンビニでの競争激化にともない「スピード感のある営業スタイル」が求められていました。

効果 「Google Apps for Work™」、Androidスマートフォン「DIGNO U」を同時に導入し、コミュニケーション基盤を刷新。

課題 ホスティングサービスのメールシステムをクラウド化し、保守管理の面で手間を軽減させたいと考えていました。

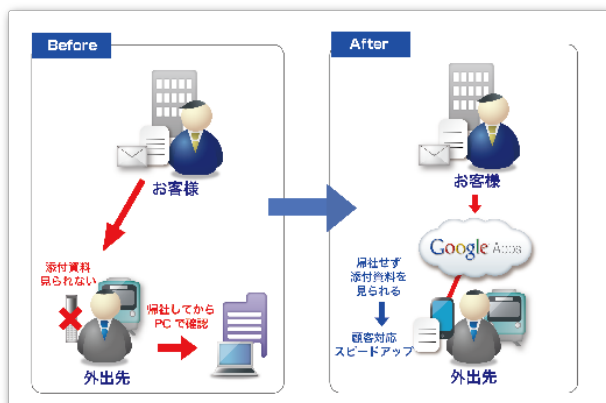
効果 クラウド型グループウェア「Google Apps for Work™」の導入で、情報システム部の運用管理負荷が軽減しました。

商品の入れ替わりが激しい製パン業界では、日々新しい商品が生まれています。第一屋製パンだけでも毎月20種類以上の新商品があり、最近では小売業界へ納品するプライベートブランドの商品製造も請け負うようになったことで、品数も年々増えています。もともと展開の早い業界であるに加え、競争の激しい小売業への

納品が増えたことで、営業担当者は今まで以上に「スピーディーな顧客対応」が求められています。

同社では、従来メールシステムはホスティングサービスを利用し、メール以外のグループウェア機能は導入していませんでした。クライアント側にインストールしたメーラーは、たびたび容量オーバーでクラッシュし修復対応に手間がかかっていたのに加え、メール以外にもグループウェア機能を導入し、商品情報の共有やスケジュール管理を迅速に行いたいなどの要望もありました。同社では、こうした課題を解消し業務効率化を実現するためクラウド型のグループウェア「Google Apps for Work™」の導入を決めました。同時にモバイル環境の見直しも行い、フィーチャーフォンをAndroidスマートフォン「DIGNO U」へ切り替え、コミュニケーション基盤の大幅な刷新を図りました。

クラウドサービスである「Google Apps for Work™」の導入により、管理者の運用負荷が軽減されたのはもちろん、「Google ドライブ」や「Google カレンダー」の活用で迅速に情報共有が行えるようになりました。「Google ドライブ」へは商品企画書を格納しておくことで外出先からもスマートフォンですぐに資料をチェックできるようになり顧客対応スピードは格段にアップしました。以前はフィーチャーフォンで添付資料すら開けなかったため、営業担当者にとっては外出先で問題なくメールが受信でき、さらに商品情報も確認できるようになり、顧客対応力が確実に



に向上しているといえます。フィーチャーフォンを残し、タブレットを導入することも検討しましたが、商談時には商品サンプルを持っていきプレゼンすることが多いため移動時の荷物になることが懸念されました。また、新商品が出るたびに提案書を用意している訳ではないのでタブレットである必要はありませんでした。

そのほかにも、これまで紙で共有していたスケジュールが

「Google カレンダー」で最新情報を常に確認でき、チャット機能「ハングアウト」の活用で素早く簡易的なメッセージのやり取りが行えるようになりました。共同編集ができる「スプレッドシート」を活用し部門を越えた販売情報の共有を実現、社内での情報伝達がスピードアップしています。これまで営業担当者が帰社後に行っていた業務報告が移動中にできるようになり、残業時間が約1時間削減できた社員もいます。

お客様の声



第一屋製パン株式会社
コーポレート本部
人事総務部長

色川 哲夫 氏

今までお客様の注文書到着から2～3日後に納品するスケジュールでしたが、競争の激しいコンビニやスーパーの商品を請け負うようになってからは、注文を受けたその日中に配送することが必要になりました。外出中の営業担当者へお客様から急な生産依頼が入ることもあり、商品情報や添付資料をすぐに確認できないのは致命的で、販売機会の損失につながると考えICT環境の刷新を決意しました。ソフトバンクの「おとくライン」を以前より導入していることで、社内間の通話はコストメリットを出せています。今回は内勤者へもスマートフォンを配布したので、いずれは事務所の固定電話を廃止しフリーアドレス化を目指したいと思っています。



第一屋製パン株式会社
営業本部
東日本営業部
小平エリアグループ
グループリーダー

吉川 明弘 氏 (当時)

営業担当者は1人あたり5～10社を担当しているため、頻繁にリリースされる新商品の提案などで日中はほとんど事務所にいません。フィーチャーフォンを使っていた頃は、メールはほとんど使わず電話連絡が中心でした。しかし外出中にお客様から注文依頼のPDFファイルで送られてきたり、新商品の情報を資料で確認したいということが多くあり、そのたびにお客様からのメールを事務所に転送し内容を確認してもらったり、商品情報を問い合わせしていました。「Google Apps for Work™」とスマートフォンの導入により、外出中でもお客様から連絡をその場で確認できるようになりました。常に競争下におかれる営業担当者にとっては、お客様からの情報などをその瞬間に見られるだけで、非常に営業しやすくなったと感じています。また、上司への業務報告はフィーチャーフォンからでは文字数制限の関係でできませんでしたが、スマートフォンで「Google Apps for Work™」を利用すれば、文字数制限もなく、読みやすいように文字の装飾もできるので、外出先から効率的な業務報告を行えるようになりました。



第一屋製パン株式会社
ITソリューショングループ
グループリーダー

勅使河原 厚樹 氏

「Google Apps for Work™」の導入以前は、容量の問題からメールがクラッシュしてしまうことが頻繁にありました。そのたびに1日ばかりで復元の対応を行っていましたが、今はそういった対応がなくなりITソリューショングループの業務負荷も軽減されています。「Google Apps for Work™」の導入前に、デモIDで数日試用したところ、「Gmail」で届いた添付ファイルをそのまま「Google ドライブ」へ保存できるなど、実際に使ってみても利便性が感じられ採用を決断しました。今回、当社のインフラ基盤となるデバイスとグループウェアを導入できたので、ここからさらなる業務効率化に向け、ICT環境の整備を行いたいと考えています。次はGoogleが提供する電話会議システム「Chromebox for meetings」の導入を検討しており、5拠点ある工場間のやりとりに活用したいと考えています。



外出先で企画書や資料を確認できる

導入企業情報



会社名：第一屋製パン株式会社

本社：東京都小平市小川東町 3-6-1

設立：1947年6月2日

URL：<http://www.daiichipan-co.jp/>

従業員数：約1,511名（2015年12月末時点）

※パンフレット記載内容は、2016年9月現在のものです。